

### 豊岡を訪ねて

研究推進部長 丹生 憲一

10月22日(木)文化公演会講演会の日ではありましたが、豊岡高校で探究の発表会があるということで、研究推進部3人と丹BAL1でお世話になっている一宮祐輔さん(丹BAL1「おすそ分け」の講師)とで、豊岡高校・豊岡市役所→豊岡劇場を訪問しました。

豊岡高校は1896年創立。柏原高校の1年先輩にあたる学校です。数年前から文科省よりSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)の指定を受け、理数科を中心に先進的な科学教育を行いながら、今年度新たに兵庫県のSTEAM(Science, Technology, Engineering, Art, Math)校の指定も受け、普通科でも全校生が探究活動に取り組んでいます。1年生では豊岡市と連携して、「未来からの挑戦状」というプログラムに取り組み、市から与えられた10の課題について考えます。2年生は、一人一人が独自の研究課題に取り組むそうで、今回見学に行ったのはその校内発表でした。

豊岡市役所では、市の「飛んでるローカル豊岡」と銘打った取り組みと、市の担当者が高校に向けて企画、提案されているという「未来からの挑戦状」について話をうかがいました。豊岡市も、丹波市・丹波篠山市と同様、複数の市町村が合併して今の姿になりました。少子高齢化、過疎、空き家…と同じような課題を抱えていますが、移住・定住、インバウンドの増加のために工夫している様子がうかがえます。豊岡演劇祭が開かれたり、来春には芸術観光専門職大学(仮称)が開学したり…。そんな中、進学を機に、都会へ出て行った若者に帰ってきてもらうためにも、真剣な中に遊び心のある仕掛けを感じました。

一つは「移住のホンネ」サユリの場合」という冊子を無料配布しています。その中で、東京から移住してきた「サユリさん」が、プラスの面、マイナスの面を合わせて彼女の豊岡での生活を紹介するのです。興味ある人は、新聞閲覧コーナーにでも置いておきますので読んでください。また、市内の高校三年生のために、学校の卒業アルバム卒業アルバムとは別に「市の卒業アルバム」を作ったという話も聞きました。また、城崎温泉ではさまざまなイベントが組まれていて、11月1日には「パンダ銭湯」の読み聞かせイベントが開かれ、作者のtupera tuperaさんの世界観を立体的に表現した展示がなされています。

豊岡高校では7時間目にあたる時間に、発表会を見学しました。51のテーマを7つの教室に分け、それぞれの会場をzoomでつないで、校内放送によって進行がなされました。私は「読解力・記述力を向上させる指導法について」「AIと教育について」「豊岡マラソンを開催しよう」「あつまれ!豊岡のまち!関係人口を増やすために」「コウノトリ米を広めるには」「香住の海と観光客」の6本を聴きました。あくまでも中間発表会なので、まだまだこれまでにのめり込んで、興味深かったのは、丹波三宝を地元の高校生が知らないのと同様に、コウノトリ(が育む)米も地元ではあまり知られていない。この米は、「コウノトリが飛来するような環境で育てられる」ことが売りのため、餌となるドジョウなどが育つ環境でなければいけません。当然、コストがかかるため、ブランド化する必要があります。このあたりは、丹波栗、大納言小豆などと共通するところがあるなあと思いました。同じようなテーマで研究している人たちが、意見を交換するの面白いかもしれません。また、「香住の海と観光」を発表した男子3人は、毎日香住の海を見ながら電車で1時間かけて通学しているとのこと。「竹野の海岸は海水浴客ににぎわっているのに、香住は…」という想いから、どうすれば人を呼べるか考えているとのこと。他人事ではなく、自分ごときに想いを感じ取ることができました。

豊岡高校は2月6日に「豊高アカデミア」という発表会を企画されており、私たちは1月29日に「地域課題から世界を考える日」を企画しています。お互いの発表会に代表者を送って交流しましょうと約束してきました。

今年度は、海外研修旅行をすることができないため、グローバルな活動はオンラインに切り替え、フィールドワークや対面での交流は国内でのローカルな活動に絞ることにしています。その一つが今回訪れた豊岡です。「ローカルを極めるとグローバルになる」そんな姿勢に学ぶことも多いと感じました。

#### <お知らせ>

長らく、コロナ禍でお休みしていた「英語でしゃべランチ」を11月4日(水)から再開します。食事は済ませて、マスク着用で行うなど、感染対策に

留意して行きます最後に訪れた、豊岡劇場はいったんは壊れて閉鎖した映画館を復活させたもので、ただ、映画を上映するときは貸し出しでなく、入り口にはバーカウンターがあり、ロビーに座ってコーヒードリンクやお酒を飲むこともできます。

究先生……途中でですが、こんな感じで書き進めていますので、奮って参加して自由に「想い」を書いてください。



書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: フォント: 10 pt

[\(水\)3年生\(木\)2年生\(金\)1年生と、曜日指定  
しています。](#)

## ニンゲンを中心とした地域振興を、コウノトリの町で学ぶ。～「豊岡視察」おすそわけ～

研究推進部 吉田 究

部長が表に詳しく報告をしているのでこれ以上私が書き加えることとてないのですが、それでも「書け」というお達しなので、やや視点を変え、極私的感想をばららせていただきます。

豊岡。私は今とても注目をしている街です。学生時代、演劇ばかりに熱を上げていた身からすれば、平田オリザ氏の取り組みからは目を離すことができません。

以前ここに富山県利賀（とが）村のことを書いたかと思います。標高700m、人口900人程度の村。そこが、鈴木忠志というキーマンによって、世界各国から演劇人の集まるメッカのような場所になったという話。

平田オリザ氏は鈴木忠志氏とも親交が厚いので、彼が豊岡に移り住み、演劇の街としてスタートを切ろうと思ったときには、利賀のことが（間違いなく！）彼の頭にあったはずですが。

彼（平田氏）がラジオで話していたのですが、世界的演劇祭で有名なフランスの都市アヴィニヨンも、映画祭で知られるカンヌも、実は人口数万（それぞれ約8万人、7万人）の地方小都市で、東京（人口1600万！）でも大阪（900万！）でもないのです。その意味では、（利賀が世界のTogaになったように）人口約8万人の豊岡が世界のToyookaになるのはまったくあり得ない話ではないのです。

今回豊岡を訪れて思った利賀との大きな違いは、若者がいるということです。私は利賀にはもう20年以上前から通っていますが、その時点ですでに若者の姿はほとんどなかった。でも、豊岡にはそれがあります。

今回の豊岡視察で一番印象に残ったのは、市役所の方が豊岡高校の「探究」に非常に熱心だったということです。探究の授業展開を滔々（とうとう）と語られるので、「この授業は誰が企画しているのですか？」と思わず訊いてしまいました。（企画はもちろん高校。でも、それに関わっておられる市がこうも熱く語られると、そんな質問もしたくなります。（とはいえ、別に豊岡市を（無責任に）羨む訳ではなくて、我々の丹BALもこうあるべきだなあと思わされた、ということです。）

豊岡市の原動力（？）は、18歳人口が流出し、Uターンを増やさなければ地域の存続に関わるという危機感からとのこと。彼らは、「丹波市はまだ都市部に通えるから」と仰るのですが、いやいや、大阪や神戸に「通う」人なんてそんなに多くはなく、事情は豊岡と同じ。むしろ、危機感が薄い分だけ豊岡より危機的と言えるかもしれません。

先日発表された来年度の高校の募集定員。柏原高校は1クラス減の5クラスとなってしまいました。これはあくまで教育行政的な決定で、今春の定員オーバーや現中3生の進路希望、本校生徒諸君や保護者、地域住民、我々の努力などとは（基本的に）別にあるもの（なのだそうです）。

ですが、本当は、地域として将来的にどんな子どもたちを育てるか、どんな進路選択の可能性を子どもたちに与えるか、そんなことを考えたなら、住民、行政が、もっと真剣に（そして切実に！）丹波市の適正な高校配置について検討しなければならないのではないかと私は思うのです。もちろん、学校も一緒になって。

鈴木忠志氏は、今の「地域振興」に人口増と経済成長の視点しかないことを憂えます。「必要なのは『人間振興』。バブル期から精神性が衰退した。オンラインのコロナ対策はあくまでその場しのぎで、教育や宗教、芸術など、知的文化活動は致命的なダメージを受けている。それに立ち向かわないことには、外国人に伍する日本人は育たない。そのためには、国土の20～30%に人口の80%が集中するという今の歪（いびつ）な国土バランスを正常化する必要があるのだ」と。

それらの問題が露呈したのが今回のコロナ禍だったのではないかと思うのです。「一人10万円の一律支給では満足は得られない。豊かさとは、その生涯を納得して生きることだ」と鈴木氏は仰います。「主体」としての「私」たちが満足に幸せな日々を生きられるようにするためにどうすればいいのかが、それを考えるような「学力」が、これから求められるものなのです。

今回の豊岡行きを、丹BALに関わってくださっている講師の方と同行できたことは大きな収穫でした。丹波地域のことを考え、

***K***★***ing***

**No.65**

兵庫県立柏原高等学校研究推進部

2020年10月30日発行

学校の枠を越えてこの探究事業の在り方を考えることは、私にとっては非常に魅力的な課題です。今後も、生徒諸君や先生方に、「おすそわけ」したいと思います。